

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成28年度実装活動報告書

研究開発成果実装支援プログラム
「エビデンスに基づいて保護者とともに取り組む発達障害
児の早期療育モデルの実装」

採択年度 平成28年度
実装責任者氏名 熊 仁美
(特定非営利活動法人ADDS、共同代表)

1. 要約

セラピスト集中養成研修を実施すると同時に、その場を活用して40名の療育機関関係者を招待し、公開シンポジウムと見学会を開催した。実装の要望があった複数の機関を選考した結果、地方型拠点として熊本の児童発達支援事業所コペル+を新たな実装先として決定し、実装先は計5拠点となった。セラピスト研修では、各拠点2～3名（計14名）が認定試験に合格し養成が完了した。

国内外の早期療育研究約100本を網羅したレビューのエビデンス収集が終了した。

予定より半年早くAI-PAC ONLINEやe-learningの主な機能開発が完了したため、29年度4月からの現場実装を行うこととなった。

療育プログラム「ペアすく」の29年度4月提供開始に向け、各拠点で地域の保護者向けにチラシ配布や説明会を開催し、約30の参加家庭が決定した。

2. 実装活動の具体的内容

（1）連携機関への初級ABAセラピスト養成研修の実施とフィデリティチェック

1/8と22に、連携する拠点の責任者と支援員が集結し、セラピスト養成の集中研修(図1)を実施した。事前学習でe-learningによる知識研修を受講してもらい、当日は15家庭の保護者・お子さんのご協力の上実践研修を実施した。その後、NPO法人ADDSを現場とした実地研修も行い、全ての研修終了後に知識テスト、実践テストによるフィデリティの確認を実施した。その結果、横浜市南部地域療育センター3名、児童発達支援マルシェ（神奈川）3名、Bring up ちば子ども発達支援センター3名、児童発達支援事業所すまいる（香川）2名、児童発達支援事業所コペル+（熊本）3名の計14名のセラピスト養成が完了した。



図1 初級ABAセラピスト養成研修（実践）の様子

（２）公開シンポジウムとプログラム見学会による成果発信と実装先の拡大

1/8の集中研修を活用し、実装先拡大のための公開シンポジウムと見学会（図2）を開催した。参加者は、公・民の療育機関や行政関係者等40名であった。シンポジウムでは、慶應義塾大学発達心理学研究室の山本淳一教授の講演後、プログラム見学会としてAI-PAC内容紹介や臨床・研修の見学を行った。結果、複数機関より実装の要望があり、選考により香川に次ぐ地方型拠点として、児童発達支援事業所コペル+（熊本）に決定した。



図2 シンポジウムとプログラム見学会の様子

（３）早期療育に関する最先端のエビデンスレビュー

約80の国内外の早期療育研究論文のレビューを行い、最先端の国際的情報の集積を行う予定であったが、当初より多い約100本の論文を網羅したエビデンス収集が終了した。慶應義塾大学発達心理学研究室と連携し、レビュー論文としての現在投稿準備中である。

（４）ITを活用した療育プログラムの機能開発と研修

予定より半年早くAI-PAC ONLINEやe-learningの主な機能開発が完了し、29年度4月より、現場実装を行うことが可能となった。個別の子どもの発達を俯瞰図で把握し、そこから課題の選択、記録用紙の作成が可能になるなど、操作性が向上した（図3）。各拠点より教材の検索や作成負荷が高いという要望があがったため、教材作成とWEB上の保管庫開設を実施し、オンラインで教材のリンクに飛び、すぐに印刷することができるようになった（図4）。「AI-PAC online操作ガイド」が完成し、3月に各現場拠点に配布の上研修を実施した。

（５）実装地域における療育プログラム保護者向け説明会

ペあすく提供開始に向け、各拠点でチラシ配布または説明会を開催した。児童発達支援マルシェとBring up ちば子ども発達支援センターで開催した説明会では、それぞれ20家庭ずつの約40家庭が参加となった。説明会では、各拠点の代表者よりプロジェクトの概要を説明した上で、実装責任者が「ペあすく」プログラムやAI-PAC等の詳細、研究協力に関する説明を行い、質疑応答の時間をもうけた。

前記活動	目標	マインド	受容言語	タクト	イントラ	複数情報	文法	アカデミ	遊びと余	身体機能	先覚作	生活スキ	社会性	自己認識
アイコン	【ここ】をクリックしてマスターに異相				歌の聞き	重ねられるもの1つで	主語をつけて話す	数え上げ	音質的な遊び	靴を脱いで行進	穴に入れる	コップで飲む	挨拶	カウントダウンの理解
共同注意への応答	遠隔動作の模倣	遠隔による要求	物を使った動作指示	人の名前	掛け声の聞き	重ねられるもの2つ並べて判別	代名詞を使う	数え上げ	身体遊び	空気に階段を上る	ボタンを押す	スプーンで食べる	集団行動	おしよりの指示に従う
自発的な共同注意	物を使った模倣	見えない物を要求	名詞の発音	場所	名前を呼ばれて挙手	3D-3D	動詞を使い分ける	個々の理解	ボール	ジャンプ	棒を差し込む	靴を脱ぐ	役割の履行	タイムの理解
タイミングを合わせる	立てて模倣	行動を要求	動作指示に反応	キャラクター	基本的な挨拶	2D-2D	動詞を使う	○塗る	かくれんぼ	足をクロス	ペグを挿し	靴を脱ぐ	他人の行動観察	強化を待つ確意(短期)
観察行動	口呼吸	指示の模倣	身体部分を指す(指す)	身体部分の名前	自分の理解を教	2D-2D	発動・発動の理解	数の発音・タクト	遠いかけっこ	片足で立つ	積み木積み	友達の模倣	他人の行動観察	強化を待つ確意(短期)
連続模倣(片手)	模倣のしるしを模倣	身体部分を指す(指す)	動作の命名	模倣や特徴を聞いて答える	形	連続詞を使う	数字の発音・タクト	お手もろ	かかとをあげる	ストロー通し	片づけ	解決案を考える	トークンの理解D.T.T	
連続模倣(両手)	注目の模倣	人物の発音	形容詞の命名	物についての質問する(インストラ)	似たもの		数字とドットのマッチング	季節ごとの歌	けんけん(左右)	シール	準備	仲間の協力	トークンの理解	帰宅
模倣の維持	要求のyes/no	発音の発音	2つの物を命名	への問はどのようにする?	色		演算	季節ごとの歌	スキップ	タオル畳み	トイレ	靴の大きさ	知覚的スキジュール	
ゆっくりとした動作の模倣	2,3語文の要求	キャラクターを選択	3つの物を命名	交通手段を命名	写真と物のマッチング		演算	やり直し	クランプ	ひも通し	お箸で食べる	発表	日常のスキジュール	
模倣の模倣	模倣を求め	色を選択	タクトのyes/no	属する物を挙げる	お片付けマッチング		大きな数	おままごと	飛び降り	ビー玉入れ	手洗い	仲間の役割を聞く	遠隔スキジュール	
左右対称	winのマント	動詞を選択	色を命名	属する物を挙げる	大人と一緒に作る		○塗る	お買い物	飛び越える	おぼしき入れ	歯磨き	話し合い	強化を待つ確意(長期)	

図3 AI-PAC ONLINEの発達俯瞰図
(発達の俯瞰図から療育課題の選択や記録用紙の作成が可能)



図4 AI-PAC ONLINEと連動した教材保管サイト
(AI-PAC ONLINEの課題ごとに、教材のダウンロードや印刷画面へ移動が可能)

3. 実装成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動等

3 - 1. 展示会への出展等

3-2. 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
1/8	公開シンポジウム 「ITを活用した早期療育モデルの実装～地域で拓く親子の可能性～」	午前 AP西新宿会議室 午後 NPO法人ADDS 新宿指導ルーム	午前の部：山本淳一教授講演（慶應大学）「見守る支援のその先へ～AI-PACの事例から～」 午後の部：AI-PACプログラム見学会（AI-PACを用いた支援や研修会を見学）	行政・療育機関関係者	40名
1/8・1/22	ABAセラピスト集中研修会&プログラム決起会	NPO法人ADDS 新宿指導ルーム (貸し空間スタジオ他)	20単位の知識講習、20単位の実践研修を実施した。実践研修には、15名の発達障害児と保護者にご協力頂いた。研修後は、プロジェクト決起会として各拠点の代表が自機関の紹介とプロジェクト参加の目的や目標を発表した。	各拠点の代表者、セラピスト研修生、保護者	20名
1/29	ぺあすく保護者向け説明会	児童発達支援マルシェ、Bring up ちば子ども発達センター	ぺあすく参加を検討する保護者向け説明会を各拠点代表者、セラピストとともに実施。JSTによる採択の流れ、連携機関紹介、ぺあすく成果、各拠点での参加希望家庭の募集や研究同意について説明、質疑を行った。	保護者	40家庭
3/5,13,21,31	ぺあすく直前研修・AI-PAC研修・発達検査研修	児童発達支援マルシェ、Bring up ちば子ども発達センター、横浜市南部地域療育センター、児童発達支援すまいる、児童発達支援コペル+	ぺあすくの運営ロールプレイ研修、AI-PAC ONLINE 運用研修、発達検査研修を1日かけて実施した。	各拠点の代表者、セラピスト研修生	20名

3-3. 書籍、DVD

3-4. ウェブサイトによる情報公開

3-5. 学会以外のシンポジウム等への招聘講演実施等

3-6. 論文発表

3-7. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

(1) 招待講演

(2) 口頭発表

(3) ポスター発表

3-8. 新聞報道・投稿、受賞等

(1) 新聞報道・投稿（1件）

BIGLOBE NEWS「民間NPOが高い専門性でJST研究開発成果実装支援プログラムに採
択」https://news.biglobe.ne.jp/economy/1007/atp_161007_6885738214.html

(2) TV放映

(3) 雑誌掲載

(4) 受賞

3-9. 知財出願

3-10. その他特記事項